

野菜のコスト指標作成のための準備会合（第6回） 議事次第

日時：令和8年7月3日（金）10：00～

場所：農林水産省本館2階畜産局第1会議室

1. 開会

2. 議事

（1）野菜のコスト指標作成に向けた検討について

（2）意見交換

3. 閉会

準備会合における整理



1. コスト指標の位置付け

- コスト指標は、一定の前提条件を置いて作成・公表し、実際の取引では、それぞれの事業者間で価格条件を協議することとなるため、そのコスト指標データを参考として、それぞれの段階ごとに、自らの条件等（産地や作型、流通の輸送距離等）に当てはめ直して活用する。

2. コスト指標作成団体（認定団体）組成の考え方（枠組み）

- 野菜コスト指標協議会（仮称：任意団体）の中に、コスト指標作成委員会（仮称）を設置して、協議会はコスト指標の公表作業等の運営実務を担い、委員会がコスト指標の作成・公表方法や公表するコスト指標の内容検討と決定機能を担う体制を整備する。【別紙 1】
- 野菜コスト指標協議会の役員は任期 2 年の持ち回り制とし、農水省の補助事業の補助対象外の経費が発生した際には、会員には個別に同意を得たうえで、分担金を徴収する。

3. コスト指標を作成する品目

- まずは供給量（出荷量）の多い、生鮮用のばれいしょ、たまねぎ、キャベツ及び加工・業務用のカットキャベツから検討を進めていく。ただし、指標の活用方法とセットで検討。

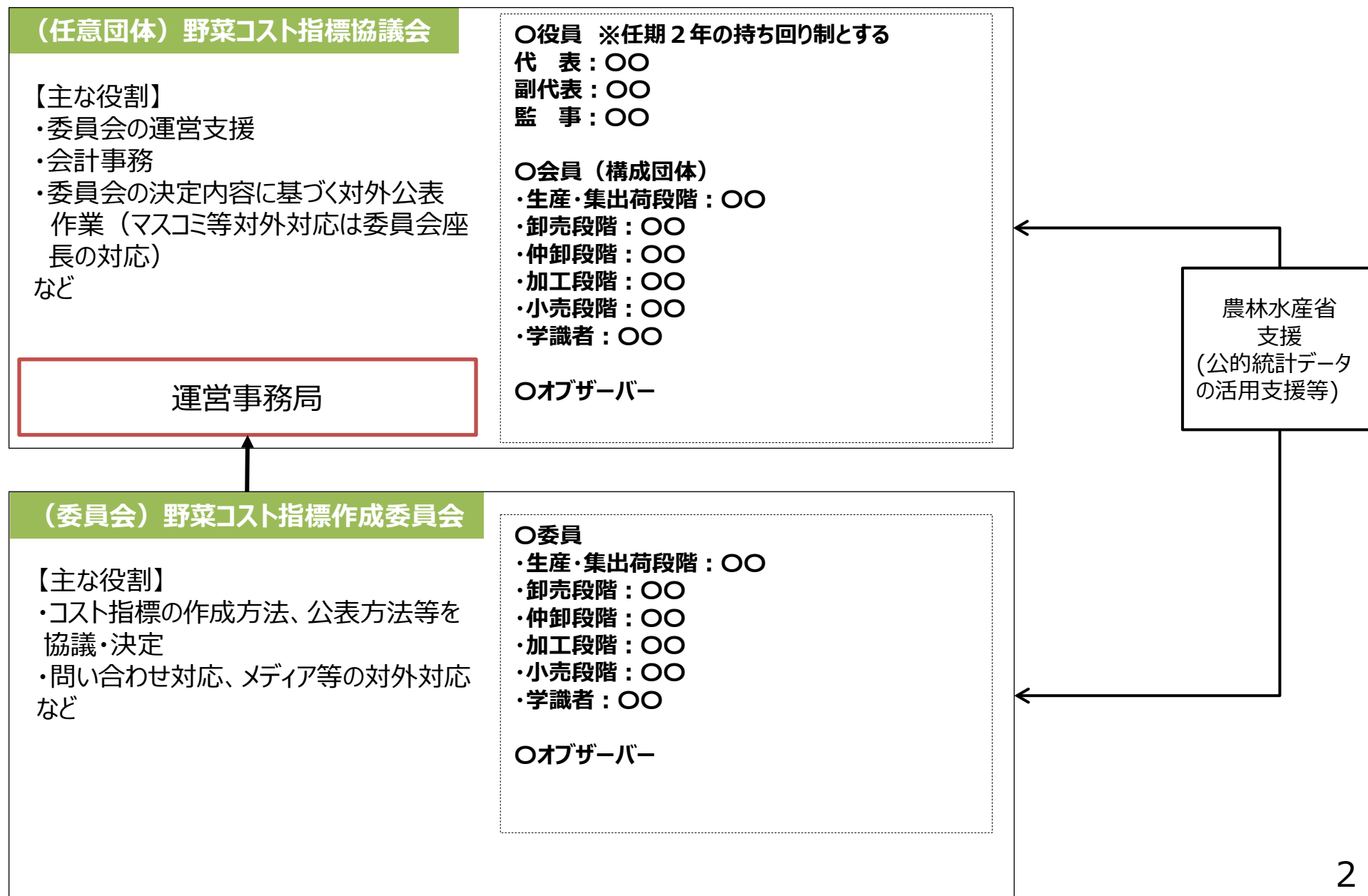
4. コスト指標の作成方法

- 国が実施するコスト調査の結果を活用していく。その際、可能な限り各段階で直近のデータを収集した上で、必要に応じて公的統計により補正する。

5. コスト指標の活用方法、公表方法等

- 日々の市場取引においては、市場の価格形成機能により、その時々需給や品質に応じて取引価格が決定され、日によってはコストを上回ることもあれば下回ることもあることを周知徹底する。【別紙 2】
- コスト指標公表の際は、野菜が消費者のもとに届くまでの流通構造を分かりやすく示す等、コスト構造の見せ方を工夫する。また、消費者への理解醸成について、国においても、協議会の取組を支援するとともに、「フェアプライスプロジェクト」等により、メディア等への露出を通じて、広く消費者に費用を認識してもらい、コストを意識した購買行動を促す取組を進める。

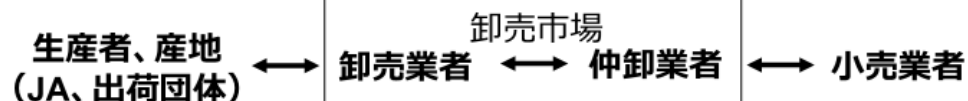
【別紙 1】体制概要図



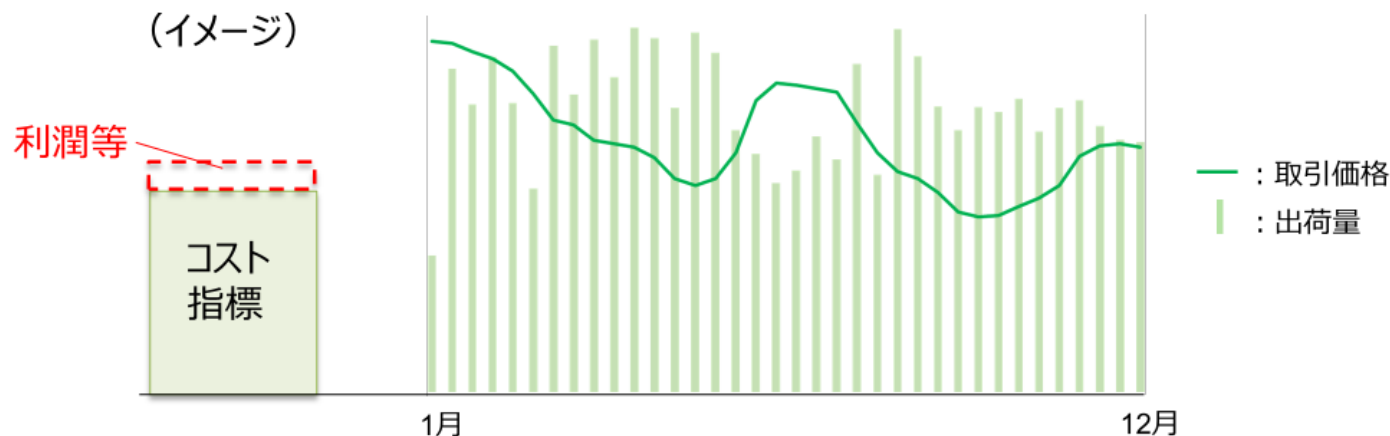
【別紙 2】



【参考】市場取引におけるコスト指標の活用イメージ



- 市場開設者は、コスト指標をHPや場内掲示により公表。
- 日々の市場取引においては、市場の価格形成機能により、その時々需給や品質に応じて取引価格が決定される。
- 日によっては、取引価格がコスト指標を参考に自らの条件や利潤等を加味して交渉した取引条件を上回ることもあれば、下回ることもある。



- 一方、取引価格がコストを恒常的に下回っている場合、当該品目の持続的な供給に支障が生じる可能性。

- 産地と卸売業者が、**出荷シーズン前に行う産地の出荷会議等**で、**価格・数量等の条件協議を行う際にコスト指標を活用**し、相場・出荷量・在庫量等についても検討。
- 仲卸業者、小売業者も、こうした会議等の場に積極的に参加。